

平成 29 年 5 月 29 日

消費者動向調査 No.120 「夏のボーナス使いみち調査」アンケート結果 ～特別テーマ「NISAについて」「iDeCoについて」～

西日本フィナンシャルホールディングス（社長 谷川 浩道、以下「西日本 FH」）の子会社である西日本シティ銀行（頭取 谷川 浩道）は、消費者動向調査を定期的に行っています。今般、西日本 FH の子会社である西日本シティ銀行と NCB リサーチ&コンサルティングが共同で、「夏のボーナス使いみち調査」を実施し、調査結果がまとまりましたので、概要をお知らせします。

記

I. 「夏のボーナス使いみち調査」

調査時期：平成 29 年 4 月
調査対象：福岡県内のボーナスがある世帯の女性 500 人
(うち回答者 490 人、回答率 98.0%)

調査結果要約

- ◆ 今年の夏のボーナス、前年夏と比較して「多くなる」は 3.9 ポイント減少。
前年夏よりも、ボーナスが「多くなる」は 3.9 ポイント減少し 21.1%となった。「少くなる」は 0.8 ポイント増加し 10.7%。
(調査結果本文 2P)
- ◆ 夏のボーナスの使いみち予定、1 位は「貯蓄」で 51.2%。2 位は「旅行・レジャー」で 43.9%。
夏のボーナス使いみち予定 1 位の「貯蓄」は 51.2%で、前年夏の 58.7%より 7.5 ポイント減少した。2 位の「旅行・レジャー」は 0.3 ポイント増加して 43.9%。
(調査結果本文 3P)
- ◆ ボーナスを貯蓄・運用する目的、1 位は「将来の生活費補てんのため」で 44.3%。2 位は「将来の教育費のため」で 38.2%。
貯蓄の目的は、引き続き将来に対する備えが上位を占めている。
(調査結果本文 4P)
- ◆ 夏のボーナスを貯蓄・運用する場合の考えは、「元本の安全性を重視したい」が 60.2%で 1 位。
景気は穏やかな回復基調にあるものの、安全性を重視する割合が引き続き高水準。
(調査結果本文 5P)
- ◆ 関心がある金融商品、1 位は「預貯金」で 75.5%。
1 位の「預貯金」への関心は 75.5%、2 位の「保険・共済」は 39.2%。
(調査結果本文 6P)
- ◆ 夏のボーナス、自由に使える金額は、前年夏に比べて夫は 4 千円ダウン。妻は 7 千円ダウン。
ボーナスが「多くなる」と予想する割合が減少し、「自由に使える金額」は前年夏から夫・妻ともに減少し、特に妻は過去最低となった。
(調査結果本文 7P)

以上

調査結果本文は[こちら](#)

Ⅱ. 特別テーマ 「N I S Aについて」

調査時期：平成 29 年 4 月
調査対象：福岡県内のボーナスがある世帯の女性 500 人
(うち回答者 490 人、回答率 98.0%)

調査結果要約

◆ 『N I S A』を知っていますか：

『知っている』は 64.1%、『知らない』は 35.9%。

年代別では、50 代の認知度が最も高く、20 代の認知度が最も低かった。

(調査結果本文 1P)

以上

調査結果本文は[こちら](#)

Ⅲ. 特別テーマ 「i D e C oについて」

調査時期：平成 29 年 4 月
調査対象：福岡県内のボーナスがある世帯の女性 500 人
(うち回答者 489 人、回答率 97.8%)

調査結果要約

◆ 『i D e C o』を知っていますか：

『知っている』は 29.4%、『知らない』は 70.6%。

年代別では、40 代の認知度が最も高く、60 代の認知度が最も低かった。

(調査結果本文 1P)

以上

調査結果本文は[こちら](#)

この調査に関するお問い合わせ先は			
西日本シティ銀行	広報文化部	本郷・長谷川	TEL 092-461-1869
NCB リサーチ&コンサルティング	調査部	原	TEL 092-476-3051

※当調査は情報提供を目的として作成されたものであり、その正確性・確実性を保証するものではありません。